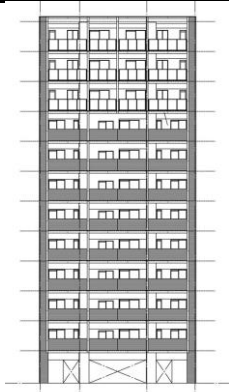


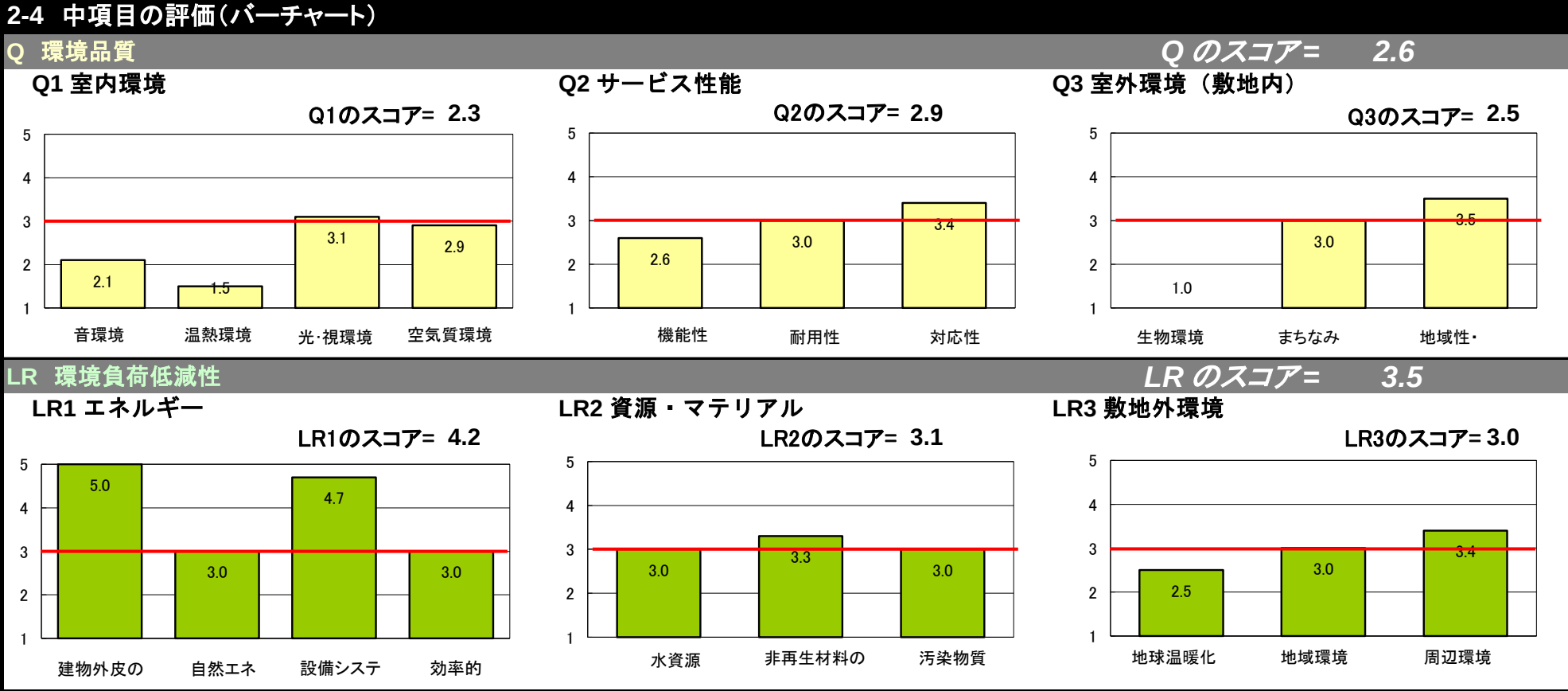
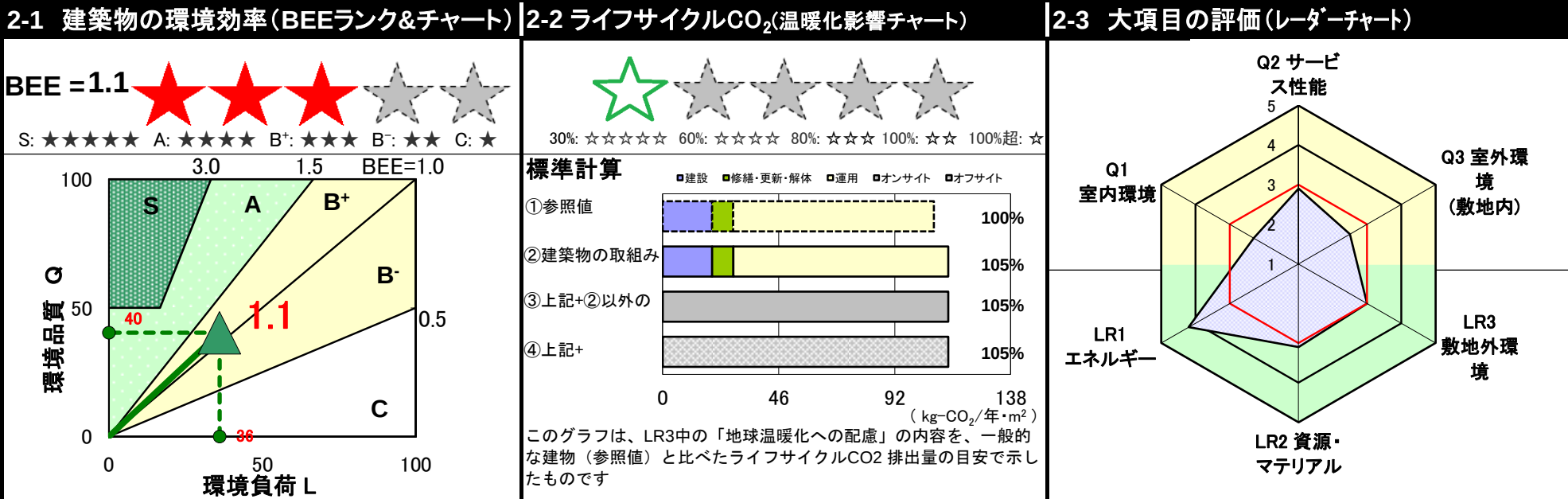
■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)エルヴィータ神水 新築工事	階数	地上12F		
建設地	熊本県熊本市中央区神水1丁目592	構造	RC造		
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	99 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年		
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2015年10月5日		
敷地面積	709 m ²	作成者	蔵原 佳代子		
建築面積	302 m ²	確認日	2015年10月6日		
延床面積	2,678 m ²	確認者	吉永 拓郎		

105%

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)エルヴィータ神水 新築工事	階数	地上12F
建設地	熊本県熊本市中央区神水1丁目592	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	99 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2015年10月5日
敷地面積	709 m ²	作成者	蔵原 佳代子
建築面積	302 m ²	確認日	2015年10月6日
延床面積	2,678 m ²	確認者	吉永 拓郎
			



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 (仮称)エルヴィータ神水 新築工事			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)		
スコアシート 実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							2.6
Q1 室内環境				0.40	-		2.3
1 音環境			2.0	0.15	2.8	1.00	2.1
1.1 騒音		【共用】50dB(A)、玄関ホール 【住居】40dB(A)、寝室	3.0	0.50	4.0	0.50	
1.2 遮音			1.0	0.50	1.6	0.50	
1 開口部遮音性能			1.0	1.00	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能			-	-	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音			-	-	-	-	
2 温熱環境			1.0	0.35	3.3	1.00	1.5
2.1 室温制御		【住居】等級4	1.0	0.50	3.7	0.50	
1 室温			1.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能			1.0	0.38	5.0	0.38	
3 ゾーン別制御性			-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境			3.0	0.25	3.6	1.00	
3.1 昼光利用		【共用】昼光率:16.4% 【住居】昼光率:2.1%	4.2	0.30	4.0	0.30	
1 昼光率			5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口			-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		【共用】庇の設置 【住居】庇(バルコニー)、カーテンの設置	2.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御			2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境			3.0	0.25	2.7	1.00	2.9
4.1 発生源対策			3.0	0.60	3.0	0.63	
1 化学汚染物質			3.0	1.00	3.0	1.00	
2 アスベスト対策			-	-	-	-	
4.2 換気			3.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能			-	-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理			-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視			-	-	-	-	
2 喫煙の制御			-	-	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	2.9
1 機能性			2.6	0.40	2.6	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ		やさまち事前協議に適合	4.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性			-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応			-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画			4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観			-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			-	-	-	-	
3 内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理			2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-		
3 衛生管理業務		-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性			3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震			3.0	0.50	-	-	
1 耐震性			3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		タイル貼(40年)	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		C以上を使用	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		2.4	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		1.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.4	0.30	3.5	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり	3.1 空間のゆとり			-	-	4.0	0.50	
	1	階高のゆとり	階高: 2.96m	-	-	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	比率: 0.21	-	-	4.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.4	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	構造部材・仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	構造部材・仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.5	
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-		
	3.2 敷地内温熱環境の向上		空地率: 99.24% 中高木、ピロティ等の水平投影面積率: 37.67% 外	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制			高性能断熱、ペアガラスの採用	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.90	4.7	0.50	-	-	4.7
集合住宅以外の評価(3a.3b)				3.0	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)			LED照明、高効率機器の採用	4.7	1.00	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1	
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0	
1.1 節水	1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3	
2.1 材料使用量の削減	2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		錯綜せずに取り外せる	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
	LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			省エネ設備の導入	2.5	0.33	-	-	2.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	自転車置場の確保、駐車スペース・駐車施設の確保、導入路への配	4.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
	1	騒音		-	-	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.67	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			4.4	0.33	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	光害対策ガイドラインを満たす、広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

（建物・敷地全体の環境に配慮したことに関するコンセプト）

熊本市の景観計画の江津湖周辺地域であるため、周辺環境を配慮した外観デザインとした。
省エネ対策等級 4 を満たし、入居者の快適性を配慮した。
南側道路～北側道路まで車以外の通り抜けが出来るようにし歩行者の利便性を高めた。

Q1 室内環境

（遮音、温度、湿度、採光、換気など室内環境に配慮した事項）

居室の窓をできるだけ大きくし、入居者の快適性を配慮した。
使用建材はF☆☆☆☆製品を採用とし、汚染被害の防止に努めた。

Q2 サービス性能

（内外装や建物の維持管理などに配慮した事項）

設備配管は比較的耐久性の高い材料とした。
将来の更新を想定し、全室ビニールフロアを採用。

Q3 室外環境（敷地内）

（緑地、景観、機器の排熱などに配慮した事項）

敷地内にはできるだけ緑地スペースを設けた。

LR1 エネルギー

（太陽光、太陽熱、高効率機器の採用などに配慮した事項）

省エネ対策等級 4 を満たした。（高性能断熱、サッシの複層ガラス等）

LR2 資源・マテリアル

（リサイクル材の使用、雨水の利用などに配慮した事項）

リサイクル資材を取入れ、環境の保全に努めた。

LR3 敷地外環境

（建物による周辺地域への影響に配慮した事項）

建物の配置をできるだけ南側に寄せ、北側隣地の日照確保に努めた。
駐車場・駐輪場の出入口の位置については、見通し等周辺の交通に影響を及ぼさないような計画とした。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)エルヴィータ神水 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		84
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				93	0.40	37.20
Q1-2.1.2	外皮性能	1.9	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.4	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.7	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				76.2	0.20	15.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				81.1	0.20	16.22
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数